

[ 別紙 2 ]

## 論文審査の結果の要旨

申請者氏名 周 宏俊

---

本研究は、「借景」と呼ばれる中国と日本の双方に存在する造園設計における技法について、用語や概念の歴史的起源および展開を踏まえた上で、その理念・技術的特質について論じたものである。「借景」は中国と日本の造園研究における数少ない共通かつ重要概念の一つであり、また両国において借景で名高い庭園が多くみられるが、実際の庭園の景観は日中で相違がある。これに対して学術的には、その概念や技法について歴史的な時間軸上あるいは地理・文化的な空間軸上で相対視されることのないまま、個々の議論や実践が展開されている状況にあり、多くの課題が残されている。そこで本研究は、日本と中国の造園における「借景」を対象として、その概念と技法の特質を歴史を含めた相対的視点から明らかにすることを目的とし、全体で6章からなる論が構成されている。

第1章においては、こうした研究の背景および目的を述べるとともに、研究の方法、既往研究の整理、概念規定等を行い研究の全体構成を提示している。

第2章では、中国における借景の用語の起源と概念の変遷を明らかとし、各概念における借景の構造的特徴を考察している。広範な文献資料の収集および検索を通し、まず宋代の黄庭堅による「借景亭」という表現が借景という語の濫觴であること、その後の清代の李漁による「尺幅窓」も概念の展開上重要であること、またこれらは園内から園外までの眺望とは異なる技法であったことなどを明らかとしている。さらに現在良く知られる明代の『園冶』が「遠眺型」の借景を解説し、これが当時の造園に与えた影響は弱かったにもかかわらず、近代以降は『園冶』の影響力が支配的となり、借景の概念が「遠眺型」へと変化したことを明らかとしている。

第3章においては、日本における借景の用語の起源と、その概念の変遷を明らかとし、さらに典型とされる庭園を例に借景の構造の特徴を考察している。広範な文献資料の収集および検索を通し、まず日本での「借景」の嚆矢が中国より伝来した黄庭堅の詩集を参照した万里集九の『帳中香』（室町期）である可能性が高いことを見出している。さらに「借景」が自覚的に用いられるようになったのは明治期であり、その概念は『園冶』の遠距離の眺望に相当するものであったこと、また近代以降借景の意味・概念は次第に狭義化されてきたことを明らかとしている。次いで借景庭園の典型事例を対象に景観の構造を分析し、その技法の特質を「小中見大」という空間意匠として整理し、複雑・多様化の傾向にあった議論を集約することに成功している。

第4章においては、実際の中国庭園を対象に、眺望に関する造園的技法および眺望の構造を明らかにし、その造園上の理念について考察している。まず園記など古文獻の調査より、眺望の理想が一般に「登高眺遠」でかつ高所が景観シークエンスの終端部に設定される構造にあったこと

を明らかとしている。次に蘇州地域におけるすべての古典庭園に対する文献調査から、まず拙政園の眺望に関する歴史の変遷を考証し、現在拙政園の借景対象とされる北寺塔の眺望は古城における日常的風景であり、塔よりも周囲の山が造園上意識されていた可能性が高かったことを明らかとしている。さらに蘇州における他の庭園における塔及び山の景観上の位置づけについて考証を行い、これらを踏まえて中国蘇州の庭園の眺望における造園理念の特質を、「小後見大」という空間意匠して整理し集約することに成功している。

第5章においては、実際の日本庭園を対象に、借景に関する造園的技法および借景の構造を明らかにし、その造園上の理念について考察している。全国の借景庭園の実例を収集した上で、景観工学の手法に基づいてスケール比や方向性などの指標を設定し「小中見大」の意匠の具体的構成について分析し、小さい庭園空間を通してより大きい空間を覗き見ることによって得られる大小の対比が、借景が内包する特質であることを実証的に明らかとしている。

第6章では、総括として日本と中国における借景の概念を比較した上で、両者の借景概念の差異の背景となる要因を考察し、概念の展開と実際の庭園の構成比較を通して、日本では借景を主題とする庭園の類型が生まれたことに対して、中国では借景は庭園における景観構成の一部にすぎないという基本的差異を導いている。

以上本研究は、「借景」という造園技法について中国と日本における概念の歴史展開を踏まえた上でその構造的特質を実証的に論じたものである。本研究は「借景」概念の起源と歴史を学術的に初めて明らかにするとともに、技法上の特質論について日中間で相対的に議論可能な視座を設定することに成功しており、学術上、応用上、寄与するところが少なくない。よって審査委員一同は、本論文が博士(農学)の学位論文として価値のあるものと認めた。